特別
ル 4
3979
1

門 ル1
3979
1

昭和二七年三月十八日 購求

小林藏書

帝國圖書館藏

智愚不同飛沉有異宗生
洛陽銅駝坊住寧樂植槻
傍家素匱窶而乏惠子之
五車性特閑散而抱季仁
之三願蓋叉惟此山跡國
者兩尊冥子之洲八荒首
闕之地千帝都千神羅梵
王之所庐仙客之所菱歷

世遠矣累年久矣物換星移而陵谷易位彼之三笠之山呼皇祇之万代四社之靈護佑宮之千秋洋々乎盛矣豈非信義之土哉其餘名區勝蹤或詠於倭歌或載於唐典者不寡矣余不自揣竊欲爲之志者

有年矣而學不富二酉材不兼三長求諸旧史則昧沿革綴諸新語則惑適莫而素志益堅確乎不拔既而擢揚古記二百餘部囊括成二十卷名曰和州舊跡幽考唯憾不洗仁裕之腸胃而淬江淹之筆鋒也

非敢傳之好事聊以備遺忘而已

延寶九年歳次辛酉孟夏吉

且林氏宗甫淺葉和列添下郡

郡山之草舍

和列舊跡圖考目録

第一卷添上の郡

春日明神御鎭座　大鳥居

春日野　馬出橋

二基塔付本尊并奥上の事

門巳　御旅所

雪消沢　摩川付鹿道○古江

橋○善趣橋○車屋殿○五位橋の事

二の花表付板戸宮の事

神垣杜　神垣山

著到殿　付　地獄谷事　　楼本宮
青龍橋　　中間道　付　劔先石事
藤島居　付　内侍門○僧正門○慶賀門事
御手川　　小社
春日四所明神　　内院小社中院小社事
直會殿　付　法華八講○舞殿○林樹場事
南門　付　歎向石○如意石事
布生橋　　若宮外院小社
若宮　付　内院小社○曼陀羅事
若宮外院小社　付　拜石○春日神位階○行幸始

○神供頒○春日祭○霜月祭礼事
屋付　霊寶事　　水屋社　付　水屋川
○能事
天地院　　三笠山
春日山　　備香山
武藏塚　　本宮嵩
香山　　鶯瀧
高円山　　高松山
白毫寺　　焼春日付二座社事
尾上宮　　若草山

羽買山
飯合川

能登川

和州舊跡幽考等一卷

添上郡

春日明神

春日明神乃御鎮座ハ人王四十八代稱徳天皇神護景雲元年六月廿一日うけとりぬしの神常陸國うしまより御相殿ましまさせ給ひく伊賀國なごりの郡なりしとうけとりぬしの御ゆかりなり

時風乃末ハ神宮の預秀行の末ハ遠宮の預

ねもとハ乙野乃丸孫宜の祖春本氏同年十二月七日誕生乃中山よりせ給ふ時風秀行供御より

葉城まりうべ神感海ゝて独栗乃姫を

ぞ給ひ紀時風秀行ゞ来葉中臣乃姫乃下

り独栗氏とあらつもの根元なり同二度

二月九日大和國安部山同十一月九日ヲ三笠山ヨリ移シ奉ル 春日記 ヲ事根源乃流と
ハ云ヘドモ又神白記ヨリ出ル歟乃
上ヨリ神ヲ遷シ奉ルヨリ西乃人ヨリ西乃雲ヲ上
ヨメリ乃ヲヾミアラヽ出セリトヤ記ク
三笠山ヨリ出リ給フヒトヲ流ヲ流ヲ 盛衰記
狩ヨリ天児屋根命ハ河内乃平野ヨリ移シ奉リ命ハ
下総乃香取ヨリ振御神ハ伊勢乃渡會ヨリ来
リ給フ天照太神乃分神ヨリ俗宮乃事ヨリ
アリテ此門ヨリ勅使ヲ遣シ給フ三笠山乃根
津岩根ヨリ宮柱ヲ建テ給フ乃四柱乃御
神ヲ奉ル景雲二年ヨリ延寶七年
マデ九百十四年霊験日ニヨリ新ナリ

此所ヨリ多居アリ大鳥居ヨリ西ヲ
ウ乃東ヨリ春日乃大宮四社若宮一社アリ三
道ヲヾウ古記ニアリ所ヨリ記ヲ

大鳥居

能乃多居乃二柱ヨリ西榊一本ヲ立テ
春日古記 ヲ記ヨリ
榊ヲヨリ出テ行ヲ打ヲ乃ヲヾレ乃雲雷
此所ヨリ東ハ春日乃やしろ乃ヲヾレ
春日野ヨリ此多居乃まヘヾ東ヲ
市紀橋アリ馬出橋ヨリ西乃ヨリ二基
乃塔乃流アリ

春日野

万葉
ヲ早振神乃やしろ

堀川太郎

春日野の若草はやくとかれぬるまにもえいでぬるかな　公實

一文紀子集

春日野の若草をなづるかのはるのはつ

拾玉集

はるのかすみ思へば神よ霞ゆ　慈鎮

拾遺愚草

朝日さす春日の野のとけぶりに雪ぬ下草　定家

壬二

春日野やうぐいすもいろ梅がえに霞ふれ一雪ぬ　家隆

雑題百首

春日野はきのふ雪の消ぬるに若草ぬ神ぞうずふ　定家

師兼百首

春日野や若草ぬ雪ぬ　定家

草根

春日野やまやまとやまのあまとぶかるがれぬもあはれぬ摘ぬ　正徹

巻第拾遺

ぎみ　宇治殿頼通　が將ぬ　道長　わが若草の

はるひよりぬ　二月ぬ　春日

暮ぬ　のぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

わかなつむ春日野過ぬ雪ぬ　心ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

法入一四条大納言公任

春日野ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

春日古記

早振甲斐の黒駒　春日野の雪ぬ　ぬ

ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

二基塔　号新御願

馬出橋

傳へ関東婚は天安二年そめぬ　大臣良房ぬ

御願本尊は釈迦菜師地蔵観音山ぬ　寺ぬ

貞観三年ぬ遺尾使感得ぬ　来朝ぬ聖仏

赤檀の像なりしを後覺信僧正一条院より御
入室の時文殊師実云々の長者よりけるとかの
乃繁栄を祈りし僧正ゆづりまけれる僧ら
ほどの霊像なりしくらもつてもせんやとさ橋よ
りそ東の方西橋もはるかに遠の釈
薬地観乃四仏を安置せ給ひ覺照造営
されて後文殊を他所へ移すもよ師子の
座やとそ云ふ橋雷火よりかりて所畫せる後は
日二基乃塔雷火よりかりて所畫せる後は
真福寺一条院より御座ありしが寛永十九
年十一月廿七日又炎上ありしとも霊佛ハ
つがるくてそ切り御長講堂延寿院
年来真ありしの後ハそのようにされ同二年

丸乃よ家縁と結ちめんとして開戸ありしよハ
人祥集ちりやそとあくしし

片思

西行法師撰集抄よ春日野乃けしきとも
乃橋ハ所ちりさ海ちるの橋とあるもやうにろう
ゆみんわりもちりけさのゆりあまびもそみま
つひちるか逢来玉逢乃うへよハ玉あるまにちり
ひろもむ事ともうさとそ乃松のみどりハ来ちこ
めるゆ乃ゆ乃ゆやゆ物ゆ所んとかるまるハあれ
ちりちりや

とびう東よ若宮乃御旅所あり
若宮御旅所
此旅所ハ法ちとそ所ちるまるまるまるまる芝生ハ家とむまる

尾花刈られて木の葉ハ散合る道あらしの風
月の祭礼ハ黒木乃柱書松葉の軒ハ紅葉
御殿をとて若宮乃社東より行南へ行入かそ道ハ雪瀧の沢あり

堺川太郎百首

春日野乃若菜の沢ハ神無て
歌枕集

雪消乃沢ハ流ひ流れ雪に埋れて　同

大道乃東ハ雪ひ流れあり赤猪の人
洗ハ山ハ是を寧川と云ふ

寧川　付麻道善趣橋

万葉

そなまつ山ハ妹とうつみいさ寧川の音ハやけさ
むし寧川の祭礼　猟あり川あり家ハ麻道
ゆく乃年ハ春日明神麻ハ麻道

道ハ麻道ハ麻道ハ神職家ハ麻道ハ麻道
法師ハ六道ハ麻道ハ麻道ハ家ハ又板橋あり板
橋あり板橋ハ麻道ハ麻道ハ古ハ乃橋ハ麻道
わたるハ善趣橋と云ふ拾集抄ハ六乃麻道
麻道ハ麻道ハ麻道乃麻道ハ麻道ハ麻道
麻道ハ麻道ハ麻道ハ麻道ハ麻道ハ麻道
麻道ハ麻道ハ麻道ハ麻道ハ麻道ハ麻道

春日古記

うちわたす橋ハ麻道乃雲ハ麻道ハ神の麻道

二島居

春日古記

多居川ハ麻道ハ麻道ハ麻道ハ麻道ハ麻道
多居の内乃麻道
宮ハ瀬織津比咩神　春日記

[illegible]の東の小ぢ[illegible]の[illegible]あり

神垣の森

風雅集
神垣の[illegible]おそのゝ春日野の不院法海皆

神垣山

神垣の森ぬと同[illegible]や類字名所大和国[illegible]

[illegible]春日[illegible]

[illegible]

後撰集
千早振神垣山[illegible]梯[illegible]時[illegible]
玉吟集
千早振神垣山とあえん日や拙[illegible]家隆

神垣の森の[illegible]

筋ありまの[illegible]の道をあふ[illegible]

著到殿付地獄谷

著到殿ハ延喜十六辛二月ノ遠忌ニ不六春
日尽ノ勅使ニ[illegible]ふ役人著到[illegible]
のゝ[illegible]後神[illegible]ノ[illegible]
山南ノ地獄谷ヲ[illegible]ノ[illegible]
水捕僧都[illegible]ノ解脱上人ノ御[illegible]
碩学ノ人ノ[illegible]化ノ後いつ[illegible]
[illegible]ノ種[illegible]
地方役[illegible]
[illegible]ノ地獄ハ[illegible]
地獄[illegible]
陀羅尼[illegible]
我も魔道ノ沉つ

にはかに三奠乃苦法と耳よ拝して九泉乃楽とさいわん事あるべしうらいあらしやそうけ八国人みれ感歎とおもり 所石集 あまつと地獄の苦ともやせん

東乃やうよ 模本宮 あり

猿田彦神 春日記 春日山乃地主ぬし春日明神大和国あべ山よりたり給ひきの時猿田彦神あべ山よ行給て是より山よ移給ふる是山あり三笠山とやかあらしかあらして安部山と猿代よ給へうし明神愈ようたりて三笠山よ跡をとゝれ給ふ 春夜神記 山社よ昆沙門の像あり模本乃宮の前よ龍と云へあり橋あり

そまつと書 龍乃橋ぬ云へ龍ハ書龍乃滝とも云へ是より若宮よ中間道とて やそ道ありそれにてらひ乃橋とそ 中やうあり橋あり

春日古記 書 龍橋

龍乃橋ぬとゝりし神水ぬうけ給ふ即弘 解脱上人

中間道

同 何事ぬ乃ぬ三笠乃中間道 板乃下ぬうへひの橋 三ぬ入りて左乃道筋と紀ぬ 板戸宮神 左乃ぬうよ釣殿の石ぬ乃盤鱗りや山石とわぬ ぬ乃ありいうそ ぬまつとぬ ぬまなばあり ぬんとひつる へける東よ行て 萩乃宮居あり

藤鳥居

むかし山の麓より春毎に咲みだれて紫雲
をけぶるが如く藤の花とはいひそやされ果
て後は高殿の古たのほるひらの方に枝う
打とりぬれば花くらの夜のひかりを表してる
ぐ傳へしかと或説によれり

新古今集の言葉書に元弘三年立后儀式あるを
次の屏風に春日祭の儀式あるを
ともにうべなりきくを心をよせ夜の白殿の紫乃天皇
回廊より三の門ありかの間傳門中の潤兵門
やがて南の楽賀門の海美二年より門を
きるとぐ春日記に回廊の東のりくよりそれ
なぐまとありみくまりの川ふか

京極市長谷寺合

春日野の松のうれぶをみくまりの川を山嶽の賀茂より紀ノ
の苔の門とふかの法多洗川とうけり 社中坊

御手洗川

内侍門をいりて小新乃忠隆金財童子社 伊勢諸尊
東より椿本乃明神乃社 三見宿 孫命 社乃南
風神乃社 吉田明神 鳥羽 を経て 楊本明神の社
大山上吹神 東より伏軍神乃社 田心 次乃栗幸の神
乃社 火飯 竹 社乃南より海本明神乃社 大物 毛命
東より西へむかふ社 八雷神の社 いぢまも

春日大宮四社明神

二階乃樓門そゝりて炊殿を
あらしめ四乃神殿南に
一の宮殿ハ武甕槌神又乃宮ハ武雷神又建
布都の神又豊布都乃神とも云常陸國加
波乃神なり拝山神ハ伊弉乃尊乃
神なりとも云ふ伊弉
二乃宮殿ハ經津主神又乃宮ハ秋主神又
秋之大人とも云ふ伊弉諾國産乃明神ハ舊事紀
神魔景雲二年山形よりうつし給ふ春日記是ハ伊弉
諾乃尊乃夫の神とそなり給ふるぞの外
ゝゝまた血化してなり給ふ神なり山神天よ
ゝゝ射る皇産靈尊乃使神なりとぞ

て葦原乃中國よりうつし給ふ紀神をそなへ給
ふ経津主ハ伊弉諾乃神なりとぞ
射なけみのぞちの神とそなり給ふ
乃神ひとりのみ丈夫にして秋ハ
や生ハ親ハ紀作ゝ紀作ゝ
乃神よりなりぞちの神をそなへ
ゝ葦原乃中
國をなつけし給へとなり二神ハ雲國よ
十四枝乃小汀よりあまくだり給ふ紀
給ふ日本
三乃宮殿ハ天児屋根尊中臣祖神也與台産靈の神
の児日本紀河内の國平岩明神なり山神天照
太神あまの岩屋よりなり給ひゝ國の
なり常國よりなりけ己ハ太玉乃命ゝ先よ天

香山乃宮百箇寺波柳紙ねまりおてとう
えるは心波瓊乃五百箇御統とけ中の元
るは心越乃加ぐとけ下の元ゑ玉和幣尚
まさてとけるもろ神ごとあひとるもよいの
ア給へば玉時岩戸ひらき紀給ふり給よ常
国乃雲とれ神宝をひそり白本紀抑天児屋
根命の波屋ハ人王四十八代稚徳天皇神
護景雲二年四社明神とともに三鬱山より張
屋乃ふり公孝根源又ものあり波
ども春日社家乃紀録ハ天児屋根命ハ人王
廿七代孝徳天皇四年十一月戊申日張屋ハ
三神よりきざり孝王代十一代年暦百二十
一年ゆり家ハ人王四十五代聖武天皇天平

十二年大中臣清麿三鬱山乃春日社より
摂津国淀下の郷寿久山乃岩ゆ
屋乃山乃岩ゆ寿久山ゆ
三鬱山と名付ふり三神ゆ
日山ハ張屋あり
四乃御殿ハ大日霊貴又乃御名ハ天照大日霊貴
又天照太神とも伊勢の国ゑ十鈴河上乃内宮
ゆて内宮

内院ハ社　付中院ハ社

内院乃ハ社二屋ハ南乃一屋ハ手力雄明神乃
一屋ハ天児屋根天神社天御中主中院乃ハ社ハ四所明神
の御ゆ岩本明神乃社住吉明神四所明神乃東ハ
ゆ神護寺乃社次乃南乃寺神乃社青和殿

乃南ハ辛榊明神乃社 白和幣 次の南乃宮栗明
神乃社 神宍次 次乃南の井栗明神乃社 ある魂る
たつまる春日祀よあり

直會殿 又号二八講屋一付幣殿

直會殿ハ古今集よ大直日とよめるよ同し
社よ直會殿とて神事よあづかる人乃まゐる
所し 案摩愚案栗抃 又八講乃屋と号する事ハ法華八
講催さるまでよりいふ乃おさまりびそノ
幣殿あり祭乃勅使幣をたてまつる所なり
▲八講乃ちしめハ人王六十二代村上天皇天暦
元年より二季よとゐなれきさる附乃長着ハ
貞信公別當ハ平源大僧正なり又乃説よ人王
六十八代後一条院寛仁元年二月廿日よ北

しし給ふともありまた後人王七十代後冷泉院康
平八年より四月九日九月四日におゐてとゝなふれ
けり旧記るまり中絶しく年経りけれが玄寛
文十二年十二月五日より九日まてとゝなひ
式法よ舞殿あり貞観元年乃遷座ます
陰従乃ふでうハ寛ゐして参ちをろく心生人
よ林檎乃本ありてなんご乃場と号して
春日祭をん奉幣をたてまつるところなり
又二門乃橋あり此綫一位の橋南を二位
乃橋と以ふ
摩伽羅八しふ女乃ふちてふをがるとゝ都乃宮ねをりとぞ

南門

南門ハ萬葉二季ニ二階乃楼門とふ文濃衆

元亨儀式宿禰光顕遷建ともゆ瑞籬回廊
等は同三年より遷立あり
當門乃南乃方より赤童子乃社乃西
あり近江南より出意石あり出石八家保
四年出而より産屋乃あり
社乃ごよ神社任大般若經一部万産
乃殺を納め而とぞ布生乃橋も御
間乃橋ともゆ橋あり

春日古記

布生橋

ありぐらや布生乃橋をとらりて向乃ぐ陸

若宮外院小社

一童子明神乃社三輪神次乃南の南宮明神の社
金山彦神次乃東乃祭童明神の社諏訪明神

若宮社院小社

若宮は天の押雲命天児屋命之児也法要集より書
法ども只若宮乃神は神主二家乃秘説なり
他より云る事なり春日乃記より史若宮
出張座は長保年三月三日二三乃御殿乃あ
いだにあらつる論ひし城時風吹猶中臣遠
是忠三乃御殿より社殿を建て後百廿
一代御社長義四年二月廿七日時風八廿乃
孫祐房乃より出殿をそなへ今の若
宮是なり春日記

一座牛力雄神ゆ一座通合神ゆ社二座あり南乃
朝祐乃霊社なり祐通合乃神は中臣祐房
後二年二月十二日廿四日乃辛酉廿七乃

と称す。源義二条の御代に神託ありて通命神と崇め
り（春日記）因に小社やしろまで春日曼陀羅あり寿永
元年中興賢寺殿基通公の御願なり
長義四年小義実生れ給ふ
九五百四十余年
若宮外院小社
廣瀬明神の社（俗云惡子母神）次乃南より懸橋明神乃
社（葛城神）を南より南へ八所明神の社（日本磐余彦伊特話伊特冊神）
を南より庇良新明神の社（姫児神）を南より
賊天乃社又南より紀伊の社四座（日前神五十猛
神大屋姫命抜姫命）春日紀あり世八所乃南方より長石あり解
脱上人的神を祀り給ふ又的恵上人
まで住ともいふ解脱上人墓墨乃家居より

明神と称し給ひ給ひ乃ち童子乃ちらまて上人
乃乃上より家くまくまを給て
我ゆむ行て住すん敬義臺釈迦法ありんぐりハ
也神託ありけるとそ（石集）
是より本宮嶽より行道あり
▲春日明神ハ嘉祥三年九月より正一位を授け
給ふ勅使ハ藤原助朝臣や
▲行幸乃始ハ一条院永祐元年三月廿二日（拾芥抄）
後一条院乃時ハ行幸ありける
より一条院の時なる例を慕ひ給ひ
寸我集
ひくらの御を給ひ給ひ
三笠山りてきよりいと
ふ行幸時の栄花物語（上東門院）

ふりくありし建保二年春日の社に行幸
ありと聞ありぐ記ひどこと侍りしも
ちろうも侍りけきさそその又の年出百
貫乃ろうを海せ給ひきるよ去年乃事
はぶしいでくに内乃御製
増鏡 春日山おもはぬやうちの紅乃者にそ心を神で立ん

▲神領三千四百七十九石九斗余 社家領千五百六
拾四石二斗余 燈明領 稲宜方千六百五拾一石八斗余 記
合六千七百拾五石余

▲春日祭 ふかい大宮乃神事 年毎二月十一月の中
日一年に五度あり 勅使 年ごに五度 御山祭八
仁明天皇嘉祥三年九月の中 医秀乃基 はじめて
奏聞 と侍りく後に清和天皇貞観十一年十一

月九日 庚申乃夜 はじめて祭あり 旧記 嘉祥三年
より延寶七年まで凡八百廿一年ゥ
一 せのぬくびまでちとせのけと 常陸
弁乳母集
塩川三良 山川てちとせのけと
内侍ゥ 神乃出おれ女おとも紅くくもゐ山ゥ 忠房
家長卿給
拾遺長清
つる春日山乃神 ゆめ乃下も 君ぞ行人 範永
内侍ゥ
清性寺乃せくぐ忠通云海ぐ出さゐく 夢ゥ
内侍ゥ 春日乃内侍乃ひけうひきる世 紅
しよ内侍関防のごと海ゥて行 年の奇れ
後世徒
めくくふりとゥ
いくぐり神乃うれしと三笠山 紅の世 ちよ
▲春日の祭 ふかい若宮乃神 年毎 祭八
保延二年 九月十日 まわり 任進 去 後

寛正年中より十一月廿七日より見物人所れ
春日日記 凡山祭の御式
乃町大宿所 遍照院家
あり月まと毎月晦日
まそ〻り明神を勸請
湯と奏〳〵 廿六日春日小社
乃口りとゝ山院より
二百五拾六羽兎百廿四羽 狸百四十二
とけるゝべ云 食乃
ぜごゝりて規式
野遊より極まさゝ
山狩ハ春日乃神祿より
彩月廿六日乃夜御

あり廿七日乃祭礼大鳥居乃東乃
例式あり高井乃東乃南都ハ南都御奉行の
御陳真東ハ衆徒裳頭
拾てゝゝぶ高居乃東の地頭ハ御門主乃出陳
あり例式凡次第
一番 伶人赤衣乃仕丁二人
引手一人ハ奉幣を
ぶ仕丁二人あり又冠
さあり又冠ハ袖乃
乃出名代ゝゝや
二番神子馬よりてあ
ゝ夜ゝゝゝより行
一人 看 ゝゝて

附あれども笠とりや
三番 細男六騎 白張よりはじめ大勢
四番 四座乃役者用ひの物まひあり 今春 金剛八弓
矢の祝言ばかりこれ観世 寶性ハ船乃祝言とう
ふ
五番 馬頭児 紅手綱より山鳥乃毛をはけてう
ちよ 牡丹乃花をはかせ乃五騎 其一騎毎より一
列りのとて矢 弓のかたよりてきぐ又龍の笠
をふり木履をとり紅ちもしものあり
六番 競馬五騎
七番 的射 立烏帽子より赤衣袴にて行 児五騎
尻籠乃矢をはひるよりのる又 遊芸五騎より
ひぐらまて行又 張籠 持馬 ひてきぐ

八番 将馬 数十口
九番 野太刀 大小百腰 長太刀あまたあり
十番 郡主人十騎 是ハ大和 侍乃出ぶり
をしたがへ 例乃ごとく長谷川堂とりの
十一番 長柄乃 徒 千余人
十二番 田楽法師 本座 新座ともに女六人ずつ
ぐ 編本 高足 ぐつ曲あり
右行列乃間より郡主人 長谷川堂乃半ハ員観十
年壬十二月廿五日勅 とやはせのあらぐて
給ふ 春日乃 秋女 春社乃時 供奉 よりて騎
馬四 振人 執杖 士六十人とはぐあさせ給ふ
三代実録 よんぐりうしハあれども乃ちあり
あり ぐ

和廿二日乃神幸ハ流鏑馬ハ流人乃業
百廿番ありしよりこれを用ふ十番せいのあり乃業あり
深更ニ及て還御あり廿八日乃夜四座乃役者
乃能あり後日乃能これあり又田楽法師のう
ち入くゝ曲あり柳せいのふ乃業ハ神功皇
后三韓退治乃時磯良乃神法めせども海命よ
りさゝげ奉りて皇后いかゝあれば我海底よりあり
て一神りよ十日と流るゝにうわよ蛭ゝ子ゝ
是とそゝげ奉ひくゝもゝみをあぞやを勅答あり
ゆうべ謀をしてめるべしその法ゝの神
せいのふ乃業とあのを結ふあ主バその業参し
うんよあゝこの神ハ有ハざうんやとして業ハ
参ゝうゝ神舞曲よいわくゝゝうまし

出被とと良よ社殿ひしゝより例としてせい
ゝふ乃業よりくめんとゝるゝあり又あり業も
ゝふ誉田八幡縁起崇徳院保延二年より延寛七年迄
九五百廿一年ゝ

屋

屋ハあゝくあれ中ゝ西ゝ乃屋とあるた
新造の屋　屋の屋　上乃屋　西乃屋　北後
儀乃屋　中院の屋ともよゝ乃屋あり
中よ西の屋よハ地蔵の霊ゝとゝくゝ
儀乃屋よハ法大師乃細字の法華経
家威乃業状鎮守府将軍維茂乃ゝ
ひ位　長吉眼乃疑馬乃屋風ゝ
小路乃宮　乃一学香花三礼乃新の

大経あり山経は六卒紀もたんくしんの相伝
天皇より仲等已下御へ給りあるべきわたの物
筆乃数あり
後ゝ代を天の御宮まれはさて何も法の義なるうん
白玉らとの道ゝ為ものそれ
神山殿を村上天皇康和三年法華殿ゆして
法華殿の儀あり南京北京乃若徳二十人め日十座
乃講義あり仲等已下儀ことゝ
やうに義の実とをもへく完あり 釈書 みゝく歌
のあるりよ給ひしとゝ
公方家位屋は 松の屋 和泉殿乃出屋は但馬の
屋山二ケ乃屋は冬嶺して
殿乃出屋は舟戸の屋一条院出門乃屋は

の屋大宮神社は椿の屋 若宮神宮は三大社の屋
社家は渡乃屋又竹の屋 薬の屋をゝくりをあり
般若乃屋はしゝ大般若経 講書 法師ゝり
のをるゝ山若ありとゝや内侍房又は細殿と
ひ赤殿とゝふ 宸春日行啓乃時典侍内侍
をゝのけ高ゝ和ゝ永祐元年三月廿二日一
条院行幸乃時上東門院山屋より内記
を後大宮焼乃時日所明神をうゝ乃山よ
うゝ生ける白雲たれびくものゝ
垣とゝ
うゝ生ける赤殿乃間に歌向乃間とゝ
神鏡四面あり至徳三年内侍房乃回廊よ
うゝ生りて細殿赤殿とゝ

の屋より後白川法皇御願金字一切経あ

社

水屋社

社のわたりより水屋川あり

水屋の社八幡一そさかりの神なり毎四月五日より二稲田姫神三

南海神女あり

水屋の祭とふふ是より盤觸八伏見院乃御宇

世の中疫病よりやはされきるりんに所うばい

社とあがめなりんとて神馬献奉し舞楽

しぬきバ霊験さらまらよりより恒例

とあまり

社

水屋川

類聚

春日山水屋の水うるをそを神ハ海なれば

支本

水屋川を是ハ春日野乃野原のさまどかの

千首

水屋川をれとたらば春日野の神

天地院

山院後ハ俗より天神山とも

盤觸とうぞ延義法師一日山院ゆて七夫

寺乃僧とるはたぐ

紀書ゆあり慶元ハ石剛寺乃あるあ

三笠山

春日山より水笠山ひてひ紀そりてちいさ

き山より春日乃社ゆ山ハ春日山の麓

若あり三笠山ハ別あり

題注

密勅

万葉

春日ある三笠山より山ある雲とあるどに辰とそ

同

大君乃御笠の山と篇かり細長川乃若ゆ乃ゆ

万葉清集

紀世りも春り彩紀ゆ三笠山春乃ゆよ

玉三集
かすがの社に詠せしめ給ふ大和物語に三笠の山に春日の社入荻 家

春日山

仁明天皇 嘉和八年春日大神乃神山の門めして
御狩代本の事當國乃郡司よりもうしつたへ禁別
之儀ふよ〜 續日本後紀に見えたり

万葉
もゝしきの春日山 朝日さす澤鹿の山は霞ふ
久安百首
春日山 麓の野辺の神のびこう神のまゝと侍るなり 俊成
長秋詠藻
月清集
春日山 高の古墨にあり 良経
春山及七百首
朝日さす春日乃鹿の声ふれて春の秋の暮月 經継
春山及七百首
春ふ代よりありもてぞ春山ふもさうへしれの苔渡
八雲御抄
春日山 備香山
備香山 八奇特よりかく是春日山りや紙ふも

八雲御抄ふ備香山春日山別ふ云ふ
りかまふ大和國と云ふ万葉集第十巻ふ
備香紙山同十二巻ふ衣備香之宜未川と
点しふり正義をわ見まへて

奇特
うるはしき声をもへふ山のもとりかの山ハ桜をあそん

春日
武人いつく山環ハ東大寺乃八幡宮乃うしろ
乃山紙を向山と云ふ又ふ山紙武蔵環とも
号まるしとを云ふ山ハ春日乃社のうしろ
あるをいつくとぞおぼゆる澄月歌枕武
蔵ぐるハ春日乃社の南ふ素ありそれぞ安
世ふ乃墓ふ云ふ
むすびぐるハ大納言兼平義る良峯安世乃

而むかしげろの男しかの石神よりあがりて
続固寺拾遺 奇性法師家より変りゆくでよりえん紀宮
古今 向の八法ごつ石神もきるべ紀よりみちよあり神やえん
討鈴より志ゝゝ向山ともみやとぞ

本宮尚

本宮の八春日明神いでゝゝ出鎮座の地
玉後景雲四年正月十二日中臣時風今の社
春日 又乃観 弘法大師うた
ようたしゝゝ本宮の社水谷乃社あり
ゝゝゝゝ

香山

変りて大明神たまよ般若を観給ふよ
拾遺集よりうぐひすの八紀山乃ゝゝ
りあり

文木

三笠山春日の社ゝゝ水流ゝゝ賞の詠 西行

鷲瀧

高円山

三笠山乃南ゝゝびく俗小田毫寺山と
ゝ高山松山同山元漢と登と五
音通歌枕 松山や波せの国祖不審と藻
塩草よりあり百葉集中は高松山とあるゝ
而よ点あり後撰集も古人ゝゝ
あり源下ゝゝ

万葉

春日野の時鳥ゝゝ明日よりハ松ぐゝん高山
霊亀三年九月志貴親王薨ゝ生ゝの時

同

あづさゆみゝゝ
ゝゝ山よ春野や紀野失と月ゝ海

でゝ[illegible]失をいたせとへば出があるとこゝ[illegible]
人乃をくるゝ
万葉 乃うねのさゝけるをへよ書れ野の上乃草をそ[illegible]
万代集 あ[illegible]さら書れ心よ[illegible]の八書る[illegible]山乃はちゝ[illegible]
新撰和歌集 書る[illegible]乃野乃篠乃篠原風さゝて千歳る神よあ迹 後鳥羽院
山より白毫寺あり 焼書自とゝ[illegible]あり
南乃尾さゝ紀り 薬野蘭寺あり その[illegible]乃
毘を尾上乃宮のふる塔とゝ[illegible]
高松山
家集 春西の高紀くゝ[illegible]やゝ西せ乃国とゝ
支末 [illegible]れ八家よ書る松乃山の樹八いくある 家持
[illegible]る松野山八丹波国あり 藻塩 後人不知

白毫寺 寺領五拾石
[illegible]山白毫寺八天智天皇乃御願開山 種樵
僧正と[illegible]
焼春日
焼春日八平毘明神御歌 向西ゝて後八本宮
乃[illegible]ゝ[illegible]紀 宮乃後雷火よ社
焼ゝより俗ゝ焼書自とゝ 春夜神記 当代二座
乃やゝ乃八一社八春日明神一社ゝ法明房忠光
をゝ[illegible]社 伝
尾上の宮
尾上乃宮いで[illegible]乃西代乃離宮せゝ[illegible]
元明天皇和銅元年九月春日の離宮よゝ[illegible]せ
続ふ[illegible]続日本紀よあり又天平寛字二[illegible]二日

俊興谷思高円離宮處作歌

万葉 [illegible]尾のうへの宮は [illegible]

後京極百番歌合 [illegible]

壬二集 [illegible]

草根集 高砂の尾上の雲の上人もまねばや野の山の桜

若草山

俗よりこゝ切り乃山と云三笠山乃ゆゑあり

びくゝあり

文太 今を盛りやありれる春の野乃若草山よ雲ぞ立中務親王

哥枕 春日野の若草山よ雲ぞ立 [illegible]

羽買山

三笠山は沖うあり南よりうびて高円山

ゆゑ若草山は三山をゆゑとぞ

万葉 春日なる御蓋山へ [illegible]

大和乃御蓋乃山もゆゑあり 藤塩

御蓋川

三笠山より近い川より八雲抄 [illegible]

乃中より [illegible] 西へ [illegible]

万葉 [illegible]川の水底さへよ [illegible]

式歌の水底さへよ [illegible]

よ万葉にあり [illegible]

とあり

飯合川

俗かいや川と云 [illegible]

大安寺乃東水 [illegible]

乃大橋川と [illegible]

万葉 山ぶきの花をたづねてあり
やまの飯食(をし)のそべいとる

和列舊跡幽考第一卷終